



前庭疾患

■ 病気の概要

体のバランスを保つ「前庭」という器官や神経に障害が起こり、平衡感覚が乱れる病気です。突然、頭が傾いたり、ぐるぐる回ったり、立てなくなったりします。耳の奥（内耳）の異常による「末梢性」と、脳の異常による「中枢性」があります。高齢犬に多い「特発性前庭疾患」は原因がはっきりしませんが、数日～数週間で自然に回復することが多い病気です。

■ 主な症状（飼い主さんが気づくサイン）

- ・頭が傾く（斜頸）
- ・ふらついてまっすぐ歩けない・転がる
- ・目が小刻みに揺れる（眼振）
- ・吐き気・食欲不振（めまいのため）
- ・同じ方向にぐるぐる回る

■ どんな検査をするの？

- ・神経学的検査（末梢性か中枢性かの評価）
- ・耳の検査（外耳・中耳炎の確認）
- ・血液検査（甲状腺・代謝性疾患の確認）
- ・血圧測定
- ・MRI 検査（中枢性が疑われる場合）：専門施設をご紹介します

■ 治療方法

内科治療

- ・吐き気止め・点滴（食欲不振・脱水の管理）
- ・原因がある場合はその治療（中耳炎など）
- ・特発性では支持療法をしながら自然回復を待つ
- ・ふらつきが落ち着くまでの生活サポート

原因への対応・専門紹介

- ・中耳・内耳の感染が原因の場合は治療
- ・中枢性（脳の病変）が疑われる場合は MRI など専門施設をご紹介します

■ ご家庭で気をつけること

- ・転んでも危なくないよう、家具の角や段差に注意する
- ・滑らない床・低い寝床にする
- ・食事や水は近くに置き、食べにくければ手助けする
- ・無理に歩かせず、ふらつきが治まるのを待つ
- ・症状が悪化する・なかなか改善しない場合は再受診する

■ よくある質問

Q. 急に頭が傾いて回っています。脳の病気ですか？

A. 高齢犬では原因がはっきりしない「特発性前庭疾患」が多く、数日～数週間で自然に回復することがほとんどです。ただし脳の病気（中枢性）との区別が大切なため、神経学的検査で評価します。

Q. 治りますか？

A. 特発性であれば多くは回復します。頭の傾きが少し残ることはありますが、生活に支障がないことが多いです。

Q. MRI は必要ですか？

A. 中枢性（脳の異常）が疑われる場合に必要です。撮影は専門施設をご紹介します。

■ なつ動物病院での診療について

当院では神経学的検査で末梢性か中枢性かを評価し、吐き気や脱水に対する支持療法を行います。中枢性が疑われ MRI が必要な場合は専門施設をご紹介します。「急にふらついて立てない」「頭が傾く」場合は、まずご相談ください（予約外でも診察しています）。

なつ動物病院 気になることがあれば、予約外でもお気軽にご来院ください